

平成28年度 第6回

君津市総合教育会議 会議録

日時：平成29年1月11日 午前10時～

場所：議会第2委員会室

平成28年度 第6回君津市総合教育会議会議録

- 1 日 時 平成29年1月11日（水）午前10時開会 午前10時35分閉会
- 2 場 所 議会第2委員会室
- 3 出席者 市長 鈴木 洋邦、 副市長 石井 清孝
教育長 山口 喜弘、 教育長職務代理者 伊澤 貞夫
教育委員 宮崎 洋史、 教育委員 佐藤ますみ
教育委員 大野 睦
- 4 出席職員 総務部長 黒川 倫行、教育部長 鈴木 盛一
教育部次長(事)教育総務課長 荒井 淳一、教育部副参事(事)学校教育課長 粕谷 哲也
教育総務課副課長 西村 泰典、学校再編推進課長 高橋 克仁
学校再編推進課主査 植田 庸介、教育総務課企画総務係長 鈴木 洋和
- 5 傍聴人 なし
- 6 議 事 (1) 君津市学校再編第1次実施プログラムについて

7 議題及び議事の概要

【次第 1 開会】

鈴木部長

定刻になりましたので、ただいまから、平成28年度第6回君津市総合教育会議を開会いたします。
はじめに、この会議の進行でございますが、君津市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定により、議事の進行は、議長が指名する職員に行わせることができるとされていますが、市長、いかがいたしましょうか。

市長

鈴木教育部長、お願いします。

鈴木部長

ただいま、市長から指名をいただきましたので、私が会議の進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

本日は、学校再編の具体的な取り組みを示した実施プログラムの協議になりますので、石井副市長にもご出席をいただいておりますことをご報告させていただきます。

【次第 2 議事】

(1) 君津市学校再編第1次実施プログラムについて

鈴木部長

それでは、次第に則り、進めさせていただきます。

早速ですが、議事に入ります。

議事(1) 君津市学校再編第1次実施プログラムについて、を議題といたします。

第1次実施プログラムについて、事務局よりご説明申し上げます。

<パワーポイントにより説明>

高橋学校再編推進課長

それでは、本日の議題である「学校再編第1次実施プログラム」について説明をさせていただきます。まず、これまでの経緯について確認をさせていただきます。

今年度夏に公表をしました実施プログラム案ですが、その前提として、有識者会議、教育委員会会議、議会などで提言や議論をいただき、27年の10月に、再編の憲法ともいうべき「基本方針」を策定しました。ここには、再編の理念、進むべき方向性が示されております。そして、その理念を踏まえ、さらに学校活性化の具体的なメニューなどを加え、「基本計画」を昨年度の3月に策定しました。この計画は、今年度からの10年間、平成37年度までの基本的な考え方が示されています。そして、「基本計画」をもとに再編の具体的な取り組みの計画、統合などの対象校や実施時期を示した「第1次実施プログラム」案を作成し、広く提示してきました。「プログラム」案を公表後、間を空けずに、第3回目の地区説明会を開催しました。11地区13会場、土日の日中、平日の夜間を組み合わせ、どの会場でも同じ説明をすることで、多くの方々が参加できるようにしました。参加者は787人でした。同時に、8月の1か月間、パブリックコメントも実施し、書面、FAX、メールなどの方法で、134人、226件のご意見をいただきました。

その他にも、幼児教育・保育も関連していたので、幼稚園説明会や、保健福祉部の保育環境整備説明会にも同行し説明も行いました。また、第3回目の地区説明会後にも、保護者や自治会などを対象とした小規模の意見交換会も行い、丁寧な説明に心がけてきました。こちらは主に統合対象となった地域から要請があり、延べ15会場で、308人の参加をいただきました。また、中学校合同生徒会においても実施プログラムの説明を行い、生徒からの意見も聴取しました。

「プログラム」案に対する代表的な意見には、

- ・小規模校には小規模の良さがあるので、現状のままでよい。
- ・分校扱いとして、小学校の低学年だけでも現在の学校に残せないか。

という意見、一方で

- ・複式学級は子どもにとっても、学校運営においても課題である。解消すべきである。

という意見。

- ・子どもが少なくなっている現状から、再編については理解をするが、松丘と亀山地区だけのような段階的な統合を望む声

また、

- ・地区説明会のような場所ではとても発言ができなかったが、現状から考えるとプログラム案に賛成である。是非統合を進めて欲しい。
- ・子どもたちはいずれ社会という大きな集団の中へ出て行くために、学校教育では集団の中で生きるための力をつける必要がある。そのためには、やはり一定の規模が必要だ。

という意見もありました。

- ・現状から統合は仕方ないことであるが、スクールバスを導入しても通学距離が長いので、段階的な統合をして欲しい。

という意見、また、

- ・スクールバスにより、どこに住んでいても教育が保障されるだけでなく、防犯上のメリットもある。

というものもありました。

その他にも、

- ・統合校は松丘や亀山に、という声がそれぞれの地域から挙げられ、

また、

- ・学区の中心に新設校を設置して欲しい。

というものや

- ・地域に学校が無くなれば、地域は衰退してしまう。

という声がある一方、

- ・田舎にいても良い教育が受けられるようにしないと、子育て世帯は住まない。子どもたちを犠牲にしないで欲しい。

という意見もありました。

また、実施の時期について

- ・地域との協議を続け、合意形成を図ってから実施して欲しい。
- ・できれば、現在の案よりももっと早く統合して欲しい。
- ・決定されない状態が長く続くのは、子どもの進路を決定する上でも困る。

という意見もありました。

それ以外にも、

- ・今回は中山間地域が対象となっているが、市街地でも子どもは減少しているので、市街地での取り組みも進めて欲しい。
- ・コミュニティ・スクールは是非その他の地域へも広めていって欲しい。
- ・認定こども園を市内全域に適用して欲しい。

というような意見もいただきました。

このように、賛成反対の両面から、多岐に渡る意見をいただきました。

これまでの再編に係る意見聴取の状況は、こちらの表にあるとおりです。教育委員会会議や議会、市長からも市民に丁寧な説明をして欲しいという希望もあり、我々は様々なチャンネルを使って、幅広い意見を聴取してきました。今回提示するものは、有識者会議から始まり、地区説明会や保護者アンケート、合同生徒会、議会、そして教育委員会会議などなど、これまでいただいた全ての意見を参考に、学校再編の理念に照らし合わせて、児童生徒数の今後の推移も踏まえ、総合的に判断をしました。

まず、実施プログラム案の目的について確認します。

1つ目は、学校の小規模化が進行しており、複式学級や単学級の学校が多い、中山間地域を統合の対象としています。

2つ目は、この基本計画推進期間内で、小学校は最低限複式学級を解消すること、中学校は本市の適正規模、つまり、最低限クラス替えができる規模にすることです。

3つ目は、地域の実情に配慮するという点で、基本計画には市内全ての学校が適正規模の基準を満たすことが謳われておりますが、発達段階も考慮した上で、適正規模には満たさないものの、あえて旧町村単位に小学校を1校残すということです。

これまでプログラム案について、見直しを求める意見や要望として、

- ・旧町村に、小さくても中学校を残して欲しい。
- ・上総地区の統合を段階的にして欲しい。
- ・統合校の位置をそれぞれの地域にして欲しい。

というようなものがありました。これらの意見・要望を参考に、再度検証を行ってきましたが、計画期間内に再度統合を行うことが必要となってくる状況であり、2度の統合を行うことは、子どもたちにとっても、学校運営上においても課題であり、再編の理念にもそぐわないものと判断したところです。

それでは、公表した案からの修正点について説明します。

まず、統合についてです。ご覧のとおり、当初の案から、1年繰り延べることにしました。これは、統合自体が目的ではなく、統合した後に子どもたちが充実した学校生活を送ることが目的であり、そのためには、事前の交流などを通して人間関係づくりなど円滑な接続をすること。そして、学校関係者からは、子どもたちのよりよい教育環境を目指すためには、教育課程の編成、各校の持っていた文化や行事などの調整、そして、新たな部活動の編成など、一定の期間が必要であるという提言をいただいております。新たな学校を作り上げていくのは学校が中心であり、よりよい教育環境を目指すという目的から、実施時期を1年繰り延べることにしました。また、統合にあたっては統合準備室を設置し、校名や校歌、スクールバスの運行、そして、地区の体育祭や文化祭など、それぞれの地区での行事の調整などが必要になってきます。これらを学校、保護者、地域関係者と協議をしながら進めていくことが必要であり、これには一定の時間がかかります。さらに、学校再編は財政的な理由から実施するものではありませんが、スクールバスの確保、施設の改修など一定の財源が必要となり、補助金なども活用して行う必要があります。もともと作成していた案は、再編に係る財政負担の平準化だけでなく、市全体の計画とのバランスも図っていたものでした。そのため、小糸・清和地区の準備期間を確保し統合年度を繰り延べると、全体も繰り延べるのが、最もバランスが取れており、妥当だと考えました。

次に使用校舎の修正です。当初上総地区の小学校は、久留里中を使用することとしていました。これ

を久留里小とすることとします。校舎と屋外運動場の位置関係と児童の学校生活の関係について、ご意見もいただいたところです。当初の案でもその関係については考慮し、中庭の整備や使用する運動場を小学校の運動場にするための導線の整備など計画しておりました。それぞれの校舎の改修、必要な整備内容、そして費用など再度検証を行い、最終的に児童の学習環境や生活環境から総合的に判断して修正することとしました。

次に統合以外、幼児教育・保育、特色ある学校づくり、通学区域については、原案通りとしました。

こちらは平成28年度現在の学校の状況です。小学校は17校、中学校は11校で、複式学級を有している学校は小学校3校です。こちらは、プログラム案を実施した場合の学校の状況となります。小学校は17校から13校となりますが、複式学級は存在しない状況となります。中学校は11校から7校となりますが、全てクラス替えができる、本市の適正規模の基準を満たすこととなります。

最後に今後の取り組みですが、子どもたちを受け入れる学校の施設として、必要な改修工事、また、通学手段としてのスクールバスの導入に向けて、運行方法や停留所など調査をもとに進めていきます。また、統合に向けて統合準備室を設置し、行政と学校が主体となって運営を行っていきます。その中で、校名や校歌、制服などについて、また各学校での教育課程の編成について、跡施設の利活用など各部会に分かれて、保護者や地域関係者と協議を行いながら準備を進めていきます。学校や保護者、地域関係者と一緒に活力ある学校をつくるため、そして地域とともにある学校づくりを目指して取り組んでまいります。以上で説明を終わります。

鈴木部長

ただいま、事務局から第1次実施プログラムについて、説明がありました。

お一方ずつ、ご意見を頂戴したいと思います。市長、いかがでしょうか。

市長

今、学校再編第1次実施プログラムの最終案が提示されました。前回、この総合教育会議において、君津の未来を担う子どもたちのことを考えて進めていくこと、そして、地域の方々や保護者の皆さんに丁寧な説明をすることをお願いしたところです。地区説明会以外でも多くの場所に出向き、意見を聴取してきたことは、開かれた市政を推進する私としても評価するものであります。そして、それらの意見を踏まえ、見直すべきものは見直され、「子どもたちのよりよい教育環境を目指す」という当初の目的に沿って、総合的に判断されたものと考えます。

鈴木部長

ありがとうございます。

続きまして、伊澤委員いかがですか。

伊澤委員

今、説明にあったように1年延長するというので、子どもたちにとっては複式を一刻も早く解消しなければ、街中の子と一緒に教育環境、いわゆる教育の機会均等にはあたらないと思います。そういう面で1年延長してよかったのか。あるいは中学校でも切磋琢磨できる環境といいながら、こういったものが1年間延長になって、子どもたちにとってはどうなのかなという思いです。たかが1年されど1年という言い方をしてしまいますけど、1年というのはこの計画の中でどういう位置づけをして取り組んでいくかということが気にかかります。

高橋学校再編推進課長

我々教育委員会では、複式学級の解消、それから切磋琢磨できる教育環境の整備ということを第一に考えて、それが実現できる最短のプログラム案を示しました。12月議会の一般質問でも要望がありましたが、十分な準備交流期間を設けるために必要最小限の延長をしてほしいとのことでした。さらに、学校現場でも各校の持っている文化や学校行事、例えば修学旅行やカリキュラム、部活動の整備など調整すべきことが多く、少し時間がかかるということです。当然、当初案実現に向けて学校関係者も全力を尽くしてくださっていますが、万全を期すためにはもう少し時間を頂いたほうがやりやすいというご意

見も頂いております。早期に取り組みなければならぬ状況に変わりはありませんが、再編の理念に照らしますと、子どもたちの交流期間やその準備の期間を設けること、保護者や地域の方のご理解を得る時間、施設整備のための準備及び財源の確保、財政負担の平準化を図るため、事務手続きなど万全を期すため、やむなく統合時期を1年繰り延べることにしたものであります。

伊澤委員

地域住民の意見などにも早急すぎるというものもあったので、1年延長したことについては交流期間などのために使うというので大変良いと思います。基本計画については10年間ということでしたが、1年延ばしたことによって10年の計画がもう1年延びるということはあるのでしょうか。

高橋学校再編推進課長

このお示ししました基本計画は10年の計画期間でございます。その期間内に複式学級の解消を図るのが目的ですので、第1次実施プログラムの実施が1年ずれたことによって全体の計画期間が延びるということはありません。

伊澤委員

複式学級と、教員が免許を持っている以外の教科を教える臨時免許について、一刻も早く解消していかなくてはいけないと思います。ぜひこの計画に沿って、早く子どもたちがより良い教育環境の中で学習できるような体制を作っていただきたいと思います。

鈴木部長

ありがとうございました。続きまして大野委員いかがでしょうか。

大野委員

これは意見というよりも要望ですが、この学校再編が、子どもたちにとって「学びあい、協力しあい、切磋琢磨できる」環境を整えるという点については、統合対象の地域の方も理解してくれていると思います。しかし、地域振興という面から見ると、地域の方からすれば、「過疎化が進んでしまうのではないか」という危惧を抱いてしまうのではないのでしょうか。今回の再編によって、学校の跡施設の有効活用やスクールバスの空き時間の有効活用など、教育委員会だけではなく、地域、行政が一体となって、地域の活性化について考えていただきたいと思います。

高橋学校再編推進課長

ご指摘の通り、教育委員会で独自の施設のあり方などの検討を進めておりますが、市でも公共施設のあり方について総合管理計画のなかで考えていくことになっておりますので、空き校舎の利活用なども市長部局と一体となって考えていきたいということで、担当レベルでは情報交換もしておりますし、また地域の公共交通のあり方についても、同時にスクールバスなどの絡みもございますし、今後検討する必要があるかと思ひまして、担当レベルでは交流、情報交換を進めているところです。以上です。ありがとうございました。

大野委員

よろしく願いいたします。

鈴木部長

それでは宮崎委員、いかがですか。

宮崎委員

学校再編は、行革など財政面からの取り組みではないと伺っています。再編に伴い、施設の改修や、スクールバスの導入など、必要な費用は支出すべきだと考えています。未来を担う子どもたちのために、長期的な視野を持ち、しっかりと取り組みを進めてほしいです。市内どこに住んでいても、等しく質の

高い教育を受けることができるということが、未来への投資となるはずですが、出来るだけ予算をつけていただければと思います。

鈴木部長

ありがとうございました。それでは佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤委員

わが清和地区は再編対象地区となっていますが、再編対象校の児童生徒の保護者が一番心配しているのが、スクールバスのことです。学校の日課や、部活動と整合性を図るべく、バスの台数の確保や、効果的、効率的な運行などきめ細かく対応してほしいと思います。また、台数の確保や運用には費用がかかりますが、費用面については、十分ご配慮いただきたいです。

先ほど、大野委員も仰っていましたが、総合教育会議の場ですので教育の枠組みを少しはみだしてお伺いしたいと思います。スクールバスの整備に関連して、地域の公共交通のあり方についても同時に考えるべきではないでしょうか。例えば、児童生徒の登下校に、路線バス、コミュニティバス、久留里線などの公共交通機関を活用するのとならないのでは、利用状況に大きな差が生じるはずですが、教育委員会として、市とお互いにどのように連携して対応するつもりなのかお伺いします。

高橋学校再編推進課長

先ほどの大野委員にもお答えしましたが、当然担当レベルでは情報交換をしながら、より効率的な運用を図っていきたいと考えているところです。中でも学識経験者、運送事業者、地域の代表の方々で構成される君津市地域公共交通会議でも、地域公共交通のあり方について、学校再編の動きと連動してやってほしいという意見も挙がっているそうです。私も今度の会議に呼ばれていますので、その中でまた意見などを述べさせていただいて、お互い協力しながらやっていきたくて考えております。

また、具体的な運用については今後統合準備室の中で検討していくこととなりますが、バス停の位置、公共交通機関のダイヤの調整など、児童生徒の通学の安全性を確保した上で、いかに効率的、効果的に運用できるかを検討していきます。

また、スクールバスを整備した後、登下校時以外は運行していない状態にあるので、空き時間の有効活用として、地域の足として稼働させるなど、地域に還元が出来ないかどうかについても検討していきたくて考えています。

鈴木部長

各委員からご意見をいただきましたが、他にございますでしょうか。

伊澤委員

スクールバスに関しては、児童生徒の安心・安全が大前提であると思います。スクールバスでの安心・安全もありますが、乗降場所から家庭まで、そういった部分についても地域の方々含めて検討いただければと思います。

鈴木部長

最後になりましたが、山口教育長いかがでしょうか。

山口教育長

私は、学校の一番の使命というのは骨太の部分、心身ともに健康な人間を育て、社会人として世の中に送り出すことだと常々思っております。それには、子どもたちが切磋琢磨できるある程度の規模の学校が必要ということですので、ただ本市では残念ながら、急激な少子化あるいは過疎化によって学校の小規模化が進んでいるというのが現状でございます。これを打開するために、学校再編を進めているわけでございます。先ほどプレゼンにもございましたが、第1次プログラム案につきましては、昨年7月末に公表いたしました。その後、地区説明会やパブリックコメント、その他要望に応じて地域団体への個別的な説明会も行なっておりまして、議会でも、9月・12月の2つの議会で、プログラム案につい

て活発な質疑がなされ、様々なご意見をいただいたところでございます。こうした計画、通常は1か月の意見公募期間を経て決定というのが手続きでございます。市長からもございましたが、丁寧な説明をということで、公表から5か月かけて意見聴取してきたということでございます。プログラム案に対しましては、もちろん賛否両論色々あるわけでございますが、その中で見直しを求める主な論点というのがやはり、中学校を地域、旧町村に残してほしいといったものであるとか、特に上総地区は小学校を3校統合、中学校を4校統合ということで、これを段階的にやってほしいというものでございます。それから、統合校の位置もそれぞれの地区でお願いできればというようなご意見でございます。あとは、円滑な統合に向けて準備期間がほしいというのは、学校現場から出た意見でございます。こういったことを勘案しながら、一方で再編の理念があります。プログラムの目的、先ほどのプレゼンで説明がありましたが、10年の間に小学校は複式を解消、中学校はクラス替えできるように2クラス以上、これが小さくなりすぎた中山間部の学校の改革のコアだと思っています。そういったことを勘案しながら、これまでいろんなチャンネルで頂いた意見を総合的に判断させていただきたいと考えております。この後の教育委員会会議で審議されますが、決定した暁には、速やかに統合準備室などを設けまして、プログラムの着実な実施に向けての作業を加速化していきたいと考えています。それから、あわせて市街地の統合や学区の見直しなどを内容とする第2次プログラム案の作成にも着手したいと考えています。それからもうひとつ、先ほど大野委員からございましたけれども、再編で地域が衰退すると、たしかにそういうご意見もございます。私はこの統合、再編によって学区が広がって、新しい地域での住人同士の新しい交流が生まれます。それによってまた新しい文化の創造ということもあるのではないかと前向きに考えていきたいと思っております。

鈴木部長

お一方ずつ意見をいただきましたが、他にございますでしょうか。

鈴木部長

それでは市長、全体的な部分でいかがでしょうか。

市長

これまで、この学校再編については、スピード感を持って進めていくことが大切だと言ってもらいました。しかし、子どもたちの教育環境を充実させることや、保護者の皆さんや地域の方々の様々な思いもあり、当初の案からは1年ほど先にはなりますが、総合的に判断をすると、この内容でよいと思います。このプログラムをもとに、よりよい教育環境を整えるとともに、地域振興といった面も視野に、他部局と連携して、「夢と誇りの持てるまち」の実現に向けて、しっかりと取り組んでください。

鈴木部長

ありがとうございました。ただいま皆様からいただきましたご意見等をふまえて、この後開催する教育委員会会議に提出させていただきます。また、学校再編に係る諸条件の整備等につきましては、今後も総合教育会議で協議、調整させていただきたいと考えております。

鈴木部長

ただいま議題となっております、議事（1）君津市学校再編第1次実施プログラムにつきましては、お手元に配布してございます資料のとおりということでよろしいでしょうか。

<意見等なし>

鈴木部長

それでは、異議もないということでございますので、議事（1）君津市学校再編第1次実施プログラムにつきましては、この資料のとおりとさせていただきます。

【次第 3 その他】

鈴木部長

続いて、次第の3 その他でございますが、連絡事項等も含め、事務局、委員の皆さん何かございますか。

<連絡事項等なし>

鈴木部長

それでは、本日の議題はすべて終了いたしました。以上をもちまして、第6回君津市総合教育会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

※同日午前11時から開催された教育委員会会議において、慎重審議の結果、当初案を一部修正した、今回提案された君津市学校再編第1次実施プログラムのとおり決定しました。

詳細については、市のホームページに掲載しております。

- ・平成29年第1回君津市教育委員会会議会議録
- ・君津市学校再編第1次実施プログラム